

次 第

1 開会

2 教育長あいさつ

3 事務局より説明

(1) 掛川市の目指す小中一貫教育について

(2) 原野谷学園新たな学園づくり地域検討委員会で検討する内容について

4 意見交換

※御発言の際は、初めに地区名とお名前をお伝えください。

5 連絡事項

6 閉会

原野谷学園新たな学園づくり地域検討委員会について

1 目的

掛川市では、平成29年6月に策定した「掛川市小中一貫教育推進基本方針」において、小中一貫教育を推進するため、教育委員会と市長部局が緊密な連携をとり、地域ぐるみの議論の中で最善の学校配置の在り方等を協議していくこととしています。

そこで、本年度から小中一貫教育の研究を指定した原野谷学園において、「新たな学園づくり地域検討委員会」を設置し、その方向性を協議して参ります。

2 原野谷学園新たな学園づくり地域検討委員会委員

番号	所 属	氏 名	番号	所 属	氏 名
1	学識経験者	山崎 保寿	11	原野谷中H29PTA保護者	杉山 喜啓
2	市議会議員	草賀 章吉	12	原谷地区代表保護者	鈴木 映美
3	市議会議員	野口 安男	13	原田地区代表保護者	天野 唯
4	子ども育成支援協議会長・原田地区区長会長	久米 正雄	14	子ども広場あんり保護者	古山 保味
5	原谷地区まちづくり協議会長・原谷地区区長会長	竹下 文博	15	子ども広場あんり保護者	山本 千恵
6	原田地区まちづくり協議会長	両角 一夫	16	地域コーディネーター	佐藤 収一
7	株式会社山田	山田 珠一	17	原谷小学校長	阪本 敦宏
8	池島フーズ株式会社	山本 安幸	18	原田小学校長	山田 卓
9	原谷小H29PTA保護者	深田 裕子	19	原野谷中学校長	深澤 大
10	原田小H29PTA保護者	鈴木 麻美	20	こども広場あんり園長	村松 恵子

※必要に応じて、関係者を招集することができる。

【事務局】

番号	職 名	氏 名	番号	職 名	氏 名
1	教育長	山田 文子	6	学校教育課主任指導主事	高塚 秀和
2	教育部長	笹本 厚	7	教育政策室長	増田 忍
3	企画政策課長	平松 克純	8	教育政策室係長	鈴木 純一
4	学務課長	中山 弘一	9	教育政策室主任	石山 尚哲
5	学校教育課長	杉浦 雅美	10	教育政策室指導主事	横井 和好

※必要に応じて他課の職員等が出席する。

3 検討委員会の位置付けについて

中学校区学園化構想（第1ステージ）

【ねらい】

学校に地域の教育力を取り込むことと、保幼小中連携教育を推進することにより、学校・家庭・地域が連携した教育環境を整備する。

【取組】

- 子ども育成支援協議会の立ち上げ
(学校支援地域本部)



- 中学校区学園化構想第2ステージ検討委員会



中学校区学園化構想（第2ステージ）

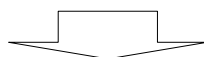
【ねらい】

中学校区学園化構想を生かしながら、各学園が地域と共に目指す子ども像を設定・共有し、その実現を図るため、9年間を見通したかけがわ型の小中一貫カリキュラムを編成して、それに基づいて行う系統性のある教育を推進する。

地域の特性を生かした小中一貫教育推進にふさわしい学園・学校の在り方を検討する。

【取組】

- 小中一貫教育の推進
- 新たな学園づくり地域検討委員会による学園の在り方の検討



中学校区学園化構想（さらなるステージへ）

【ねらい】

変化の激しい社会を生きぬく子どもたちのための学習環境を整備する。

【取組】

- 新たな学校づくりの基本計画、基本設計 等

【用語解説】

※1「お茶の間宣言」

かけがわお茶の間宣言のこと。

人づくりの土台である家庭において、家族が集う「お茶の間」の役割を再認識していくことで、家族団らんから生まれる財産をもとに、豊かな広がりのある人づくりにつなげ、市民総ぐるみで教育の振興を図る契機とする。

※2「中学校区学園化構想」

市内9つの中学校区を「学園」と呼び、保育園、幼稚園、幼保園、小学校、中学校が連携を強化し、地域に根ざした教育活動を推進している。子どもの発達段階に応じた一貫性のある教育の推進と、地域の財（地域の人材や環境、文化など）を生かした教育活動を展開していく。

※3「かけがわ型スキル」

これからのグローバル社会を生き抜くために求められる思考力や問題解決能力、人とのかかわるコミュニケーション能力など、次代を担う子どもたちが身に付けるべき「21世紀型スキル」（国際団体「ATC21s」が提唱する4カテゴリ10スキル）を参考に6項目を定めたもの。言語活動を重視している。

- ①思考力 ②問題解決力 ③意思決定力 ④コミュニケーション力 ⑤情報の選択・活用力
⑥地域や社会の中で生きるためのキャリア

※4「生涯お達者市民」

健康で生きがいを持って生活している人、自立して生活している人のこと。
65歳以上で要介護1以下のお達者市民の人数を指標としている。



計画の位置づけ

掛川市総合計画

（掛川市地域創生総合戦略）

期間：H28～37（10年）

3つの日本一

教育文化

健康・子育て

環境

教育大綱かけがわ

期間：H28～37（10年）

人づくり構想かけがわ

（掛川市教育振興基本計画 後期）

期間：H26～30（5年）

掛川市子ども・子育て

支援事業計画

期間：H27～31（5年）

掛川市文化振興計画

期間：H27～36（10年）



教育大綱かけがわ

発行：平成28年4月

編集：掛川市企画政策部企画政策課



教育大綱かけがわ

～「教育・文化日本一」のまちを目指して～

子どもたちの未来のために

子どもは未来の宝です。

子どもたちが『希望』を持ち、夢や目標に向かって自分を磨くことができ、掛川に誇りと愛着を抱きながら、地域でも、グローバルにも活躍する人に、たくましく成長することを願っています。

子どもは、家族や地域の大人から多くのことを学びながら成長します。

大人には、掛川市民がこれまで培ってきた「報徳」や「生涯学習」、「協働のまちづくり」の理念を活かし、子どもたちの未来のためにできることを問いかけ合いながら、生涯学び続け、子どもたちの目標となるような、充実した人生を送って欲しいと願っています。

今、掛川市は、子どもたちの未来のために何をすべきか、何ができるのか、という視点にたって、教育大綱を定めます。

平成28年3月

目指す姿

- 変化の激しい社会で生き抜く力を備えているひと
- 多様な人々を結び、地域でもグローバルにも活躍できるひと
- 高い目標を持ち、新たな価値の創造にチャレンジするひと
- 自律する心を持ち、他者の考えや痛みに共感できるひと
- 豊かな心や健やかな体に高めていくひと

基本方針

1 ところざしと学ぶ意欲を育てる人づくり

生涯にわたって、充実した人生を過ごすためには、自己を磨くことが必要です。子どもたちの知識、感性、経験、体力、探究心、コミュニケーション力、変化への対応力等を高めるしくみづくりを進め、ところざしを持って学ぶ意欲を持ち続け、主体的に問題を解決する能力を身に付け、地域でも世界でも活躍できる人材を育みます。

2 市民総ぐるみによる学びの環境づくり

家庭、地域、園・学校、企業等、人の生涯において、学びの場は多様であり、成長の過程においてそのステージは変化します。「お茶の間宣言」^{*1}や「中学校区学園化構想」^{*2}をはじめとする「市民総ぐるみの人づくり」を推進し、先進的で特色ある学びの環境を充実し、意欲あるすべての子どもの学びの機会をつくります。

3 未来志向のまちづくり

現在の私たちのまちや暮らしは、過去、そして未来につながっています。郷土の偉人に学び、先人の培った地域の歴史、文化、伝統、知恵を受け継ぎ、郷土に対する誇りや愛着を育むとともに、未来志向で次代へつなぎ、まちの未来を支える人が躍動するまちづくりを進めます。

かけがわ未来プロジェクト

子どもたちの未来のために、基本方針に基づき10年間(2016～2025年)で重点的に取り組むべきプロジェクトを掲げます。

1 命とところざしを育むプロジェクト

情報や人の移動が世界規模となり、変化への対応が求められる時代となっています。たくましい身体の育成、命と人権、平和の大切さを学ぶ機会を充実するとともに、「かけがわ型スキル」^{*3}の習得を推進し、変化の激しい社会を生き抜くために必要な力を育みます。



2 知識、経験、感性を育むプロジェクト

これからの時代は、未来を切り拓く力が求められます。市民の学びや体験、情報の拠点の充実と多様化を進め、知識を身に付け、経験を積み、豊かな感性や創造性を育むことで教養を培い、生涯にわたって学び、何度でもチャレンジできる人づくりを推進します。



3 温かく安らぎのある家庭を育むプロジェクト

すべての教育の出発点である家庭において、豊かな広がりのある人づくりが求められています。乳幼児期から青年期まで切れ目のない総合的な家庭教育支援体制を構築し、必要な情報が家庭に届く「つながり」と「安心感」のある子育て環境を整えます。



4 郷土への誇りと愛着を育むプロジェクト

少子化や若い世代の人口流出が懸念される中、ふるさとに誇りと愛着を持って地域文化を受け継ぐ市民が求められています。これまで先人が培ってきた郷土の歴史や文化などを学ぶことにより、郷土を誇りに感じ、ふるさとを大切に思う気持ちが育つ人づくりを推進します。



5 スポーツを愛し、心身ともに健康な生活を育むプロジェクト

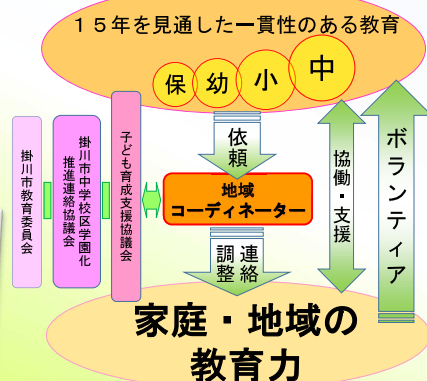
生涯を通じて、充実した人生を送るために、健康づくりと体力づくりは欠かせません。2019年ラグビーワールドカップや2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機に、市民の生涯スポーツへの意識啓発と、「生涯お達者市民」^{*4}の推進に取り組み、市民の健康の維持・増進を図ります。



掛川市の特色である中学校区学園化構想

中学校区学園化構想は、学校・家庭・地域が連携して、**子どもを育てる教育の仕組み**です。

中学校区を「学園」と呼び、区長等の地域代表と保護者や学校代表からなる「**子ども育成支援協議会**」を中心に、保幼小中の連携・一貫教育と、園・学校支援活動の推進を図っています。



かけがわ型小中一貫教育 Q & A

今までの教育と小中一貫教育との違いは何ですか？

掛川市が取り組む小中一貫教育は、これまで取り組んできた中学校区学園化構想を生かし、小中連携教育をさらに充実発展させ、小学校から中学校の9年間を見通した、つながりのある教育により、その効果を高めるものです。

小中一貫教育というと、校舎を同じにしなければいけないのでしょうか？

小中一貫教育に取り組むに当たり、先進的な事例では、小学校と中学校が同じ敷地内にあると教育的効果は高まるとされています。学校施設の在り方については、それぞれの学園の実情を踏まえ、地域の皆様と検討しながら方向性を定めていきたいと考えています。

小学校6年生は責任感やリーダーシップを発揮する機会になっている。その機会は保障されますか？

教育段階の区切りを明確にし、6年生だけでなく、それぞれの段階で、責任感やリーダー性が発揮できる場を設定するよう努めます。また、小学生が中学生と関わることにより、さらに成長できる機会も多くあると考えています。



<地域の方の協力によるお茶の手揉み体験の様子>

「夢実現に向かう、心豊かで凛とした市民」の育成

掛川市教育委員会 3つの宝

「かけがわ教育の日」「中学校区学園化構想」「かけがわお茶の間宣言」

問い合わせ先

〒436-8650 掛川市長谷1-1-1

掛川市教育委員会 教育政策室

Tel 0537-21-1109 Fax 0537-21-1222

掛川市小中一貫教育推進基本方針

掛川市が目指す 小中一貫教育



© 掛川市

これからの社会を
生きる子どもたちのために



これからの社会は、今以上に急激な変化が予想され、私たちは厳しい挑戦の時代を迎えようとしています。このような社会を生きていく子どもたちは、周りの変化や環境に適応しながら、困難に立ち向かう力を育むことが求められます。

そこで、掛川市では、本市の特色である中学校区学園化構想を生かした、小中一貫教育を推進していきます。

平成29年9月
掛川市教育委員会

はじめよう！かけがわ型小中一貫教育

9年間を見通したつながりのある教育



指導の充実

～小中学校の指導のつながり～

【小中一貫カリキュラム研究】

- ・各学園で地域の特色を生かした教育を行います。
- ・各教科の指導内容のつながりを意識し、9年間を見通した教科指導の研究及び実践を行います。
(H29～H31 指定研究校 原野谷学園・城東学園)

【学校間の縦の接続】

- ・小中学生の積極的な交流活動や小中一貫した指導方法等により、小学校から中学校へ進学する際の変化を小さくし、中1ギャップの緩和を図ります。

【ICT活用の推進】

- ・子どもたちの対話を重視した主体的、協働的な学びを実現する道具としてICT機器を活用し、情報活用能力やICTスキルを育みます。



＜自分から意見を話したくなる授業＞

「やってみたい！」
「できた！」
という学びの意欲や喜びが
もっと積み重なります

かけがわ型小中一貫教育

- 学校・家庭・地域が連携し、地域ぐるみで子どもを育てる
中学校区学園化構想を基本にします。
- 各学園が**地域と共に目指す子ども像を設定・共有**します。
- 9年間を見通したつながりのある教育**を推進します。

小中一貫カリキュラム

目指す
子ども像



中学校区学園化構想
市民総ぐるみの教育



【教科担任制の導入】

- ・子どもの成長と学園の実情に応じて教科担任制を導入し、教員の専門性を生かした授業を行います。

【心の教育の推進】

- ・報徳の教えが根づく掛川らしさを生かした「かけがわ道徳」を推進していきます。
- ・規範意識、自他の生命尊重、自尊感情や他者への思いやり、いじめ未然防止に関することを中核とし、各学園の実態に応じた道徳教育に取り組みます。

子ども
の現状

子どもを取り
巻く環境

地域と共に
目指す子ども像
を設定・共有

子ども
の課題

学校の
思い

地域の
願い

保護者
の願い

【地域とともにある学校づくり】

- ・地域でどのような子どもたちを育てるのか、将来像を共有し、学校と地域が一体となって子どもたちを育てていきます。
- ・学校運営や学校の課題に対して、保護者や地域の皆さんが参画するコミュニティ・スクールを推進していきます。

掛川市が目指すひと



子どもたちの未来のために 何をすべきか、何ができるのか

この視点に立って策定した
「教育大綱かけがわ」にある
目指す姿に向かって、子ども
たちのための教育を推進します。

変化の激しい
社会で生き抜く
力を備えて
いるひと

高い目標を持ち、
新たな価値の創
造にチャレンジ
するひと

多様な人々を
結び、地域で
もグローバル
にも活躍でき
るひと

目指す姿

豊かな心や
健やかな体
に高めてい
くひと

自立する心
を持ち、他
者の考えや
痛みに共感
できるひと

【社会性の育成】

- ・小中学生の関わりの中で考え方や生き方を学ぶ機会を増やし、年長者に対してあこがれを抱きます。
- ・地域の方々が学校教育へ積極的に参画し、支援していただき、地域の良さや人の温かさを学ぶ交流体験の充実を図ります。



＜地域防災訓練における
中学生の活躍の様子＞

「地域が大好き！」
「掛川が大好き！」
と思う子が増えます

地域の支え
～多くの人とのつながり～



中学校区学園化構想を生かして

